

令和7年度 学校経営の改革方針

学 校 名	津市立櫛形小学校	校 長 名	片 岡 弓
児童・生徒数	50名	学級数	6学級
		教職員数	9名

【めざす学校像】

【学校教育目標】

夢や希望に向かって生き生き学び、地域と共によりよく生きる、心豊かな子の育成
 ～自分が好き 友だちが好き 家族が好き 櫛形が大好き！～

【めざす子ども像】

- 確かな学力を身につけ、自ら学び、仲間とともに高め合う子
- 自他の命や人権を大切にし、互いに認め合う子
- 自ら進んで気持ちのよいあいさつができる子
- ふるさとから学び、ふるさとを愛する子

【めざす教師像】

- 子ども一人ひとりの思いに丁寧に寄り添う教職員
～ 子ども・保護者・地域から信頼される存在となる～
- 仕事及や生活に喜びと生きがいを持ち、自ら学び続ける人間性豊かな教職員
～ 「ひとりの人」として、「教職員」として充実し輝く～

【現状と課題】

- 令和7年度から複式学級(2・3年 4・5年)を有する小規模校です。児童数が年々減少傾向にある中で、学校と地域・保護者が連携・協力して、地域を愛する子どもを育てることを大切にしています。学校は、地域や保護者に情報を発信し、学校運営協議会とともに、地域ぐるみで子どもを育て、地域とともにある信頼される学校づくりを進めています。
- 多くの子どもたちは明るくのびのびと育っています。その一方、子どもたちを取り巻く生活実態や環境など諸条件の影響から、集中力を持続させることが難しい子どもや基礎学力の定着の弱い子どもも見られます。すべての子どもの力を伸ばすために、「学び合う学び」を取り入れた授業改善を進め、さらなる授業の創造・工夫を進めていくことが必要です。
- 子どもたちは縦割り班活動に取り組んでいることもあり、学年を越えて仲良く活動する姿が見られます。一方でクラス替えがないため、人間関係が固定化しやすく、うたれ弱い子どもが多く見られます。子どもたちが互いに切磋琢磨して活動したり、個々の違いを認め合ったりする仲間づくりが求められます。
- 児童数に対して特別な支援を必要とする子どもが多く在籍しています。校内特別支援教育委員会等でしっかり協議を行い、きめ細かな教育活動を実践する必要があります。また、医療機関や専門機関と連携を図りながら、教育環境の整備やよりよい指導の在り方を研究する必要があります。

【重点目標】

- (1) 確かな学力を身につける子どもを育てます (授業改善・授業づくり)
- (2) 仲間づくりを基盤に、互いに認め合い、つながり、高め合える子どもを育てます (人権教育)
- (3) 心豊かで、気持ちのよいあいさつができる子どもを育てます (生徒指導)
- (4) 保護者や地域、関係機関と連携・協力し、信頼される学校づくりに努めます (保護者・地域連携)
- (5) 協働的・互助的な学校経営を進め、教職員の働き方改革を推進します (職場づくり)

【具体的な行動計画】

(1) 確かな学力を身につける子どもを育てます（授業改善・授業づくり）

- ① 「学び合う学び」を取り入れた研修をさらに深め、1人1回の研究授業の実施、学年部研修の充実、ICTの有効活用、外部講師等の招聘などを通じて、各教員の授業力向上を図り、聴き合い学び合う授業づくり・授業改善を進めます。
- ② 家庭学習の習慣化・自主学習の定着など、保護者の協力を得ながら、基礎学力の定着・向上を図ります。
- ③ 学級文庫の充実や読書ボランティアの支援、朝読、読み聞かせ等を通して読書量を増やすと共に、ノーマディアデーを活用して、家庭での読書の取組（年間50冊以上目標）を進めます。

(2) 仲間づくりを基盤に、互いに認め合い、つながり、高め合える子どもを育てます（人権教育）

- ① 互いの違いを認め合い、つながり、どの子ども大切にされる仲間づくりを進めます。
- ② 子どもの思いや生活背景を適切に把握し、一人ひとりに寄り添い共に考える教育活動を推進します。
- ③ 音楽活動によって仲間や地域とつながる活動を展開し、音楽を通じた豊かな表現力と、互いの思いや表現を聴き合う力を育成します。
- ④ 医療機関・専門機関との連携を密に図り、個に適切な支援や教育環境整備、特別支援教育の充実に取り組みます。

(3) 心豊かで、気持ちのよいあいさつができる子どもを育てます（生徒指導）

- ① 児童会活動や委員会活動を通して、子どもの自主による「あいさつ運動」を展開させ、自ら進んで気持ちのよいあいさつができる子どもを育成します。
- ② 教職員自らが進んであいさつし合い、保護者・地域と連携し、地域ぐるみであいさつが行き交う学校風土を醸成します。

(4) 保護者や地域、関係機関と連携・協力し、信頼される学校づくりに努めます（保護者・地域連携）

- ① 地域の人材や教材を活用して体験を重視した学習を進め、ふるさとを愛する気持ちを育てます。
- ② 学校行事への地域住民や保護者の参加や指導、各たよりやHPを通しての積極的な情報発信等、学校運営協議会とともに、地域とともにある信頼される学校づくりを推進します。
- ③ 津市架け橋プログラムの取組を通じて、2小3園との連携をさらに図ります。
- ④ 学校評価を通して、PDCAサイクルによる教育活動の改善に努めます。

(5) 協働的・互助的な学校経営を進め、教職員の働き方改革を推進します（職場づくり）

- ① 教員が自己の働き方を見直したり、SSSの効果的な活用を促進したりして、一人当たりの月平均時間外労働30時間以下、月45時間・年360時間を超える時間外勤務者0人をめざします。
- ② 一人当たりの年間休暇取得日数前年度比3日増または15日以上をめざします。
- ③ 定時退校（月4日）できた職員の割合80%をめざします。
- ④ 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合70%を目標にして、全員が協力して取り組みます。
- ⑤ 職場安全衛生会議を開催し、職場の労働環境を定期的に見直します。

